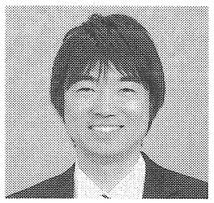
大阪府は大阪の力で大阪を笑顔にし、再び大阪を輝かせ大阪の底力を発揮する「大阪維新」プログラムを進めている。その重点施策の一つに「大阪ものづくり優良企業賞」を掲げている。大阪の強みであるモノづくりをさらに伸ばし、〝ものづくりの街・大阪〟のPRを目的に08年度から開催しており、今回の「大阪ものづくり優良企業賞2009」で2回目。最優秀企業賞は極薄ガラス分野のリーディングカンパニー松浪硝子工業（岸和田市）で、160年の歴史で培ったガラス加工技術を最先端のガラス製造技術へと進化させた。技術力部門賞は機械刃物製造の第一鋼業（大阪市西成区）、特別賞は再生骨材の京星（枚方市）と板金・金属加工部品製造の淀川製作所（守口市）。このほか優良企業賞41社を選んだ。表彰式を26日10時半から大阪府立労働センター（エル・おおさか）で行う。

大阪中小企業顕彰事業「大阪ものづくり優良企業賞2009」

大阪府が45社選定　きょう表彰式

メッセージ



大阪中小企業顕彰事業実行委員会 委員長
大阪府知事　**橋下　徹**

世界のニーズに応えます

大阪には永い歴史の中で培われた独自の技術を持つ企業や、ニッチな分野で高いシェアを占めるオンリーワン企業が多くいます。そして、これらの大阪のものづくり中小企業は、その優れた基盤技術でリーディング産業を支えています。

一方、新エネルギー分野の生産拠点の集積が急速に進む大阪ベイエリアは、近年「パネルベイ」として内外から注目されています。このように〝ものづくりの街〟大阪は未来に向け、進化を続けています。

そんな中、「大阪ものづくり優良企業賞」は、このものづくりの街・大阪の看板企業となる中小企業を発掘、顕彰するもので、今年で2回目となります。今回も他社の追随を許さない優れた特徴を有し、大阪のものづくりのレベルの高さや層の厚さを示す45社を選定しました。受賞企業に代表される大阪の「ものづくり力」は、国内にとどまらず、世界のものづくりのニーズに応え得るものと確信しています。皆さまのビジネスに大阪のものづくり中小企業をぜひご利用頂きますようお願いします。

大阪府の「ものづくりB2Bセンター」では、全国から寄せられるものづくりのあらゆるニーズに応える元気な中小企業を探索し、紹介しています。どうか皆さまも、ものづくりのことなら何でもそろう〝ものづくり企業の宝庫・大阪〟にまずはご相談下さい。

受賞企業プロフィール

順不同

マツダ
金型技術で難形状ネジ

マツダは冷間圧造部品製造がメーン。卓越した金型設計技術を駆使し、高精度で難形状のネジ部品製造を得意とする。初期費用と納期を大幅に削減した小ロット生産を請け負うようになってから、自動車関連部品を中心に引き合いが増加し、今では全体の85％までを占めている。

「自らで新しい市場を開拓する気持ちが大事」（松田英成社長）と部品の低コスト化や精度向上の提案を行いつつ、今後は海外メーカーとの直接取引や航空機産業への参入に挑戦していく。

そのほか高さ4ミリメートルのワッシャー（座金）など圧倒的なプレス精度を必要とする部品などを新たに開発、販売している。

デンゲン
匠の技生きる電源機器

デンゲンは「人にも、環境にもやさしいモノづくり」をコンセプトに、匠（たくみ）の技を発揮した電源機器などを手がけている。1966年発売のカーバッテリー充電器「ハイレートマックス」は、国内トップシェアとロングセラーを同時に実現した。さらに「クーラー・マックス」のフロンガスクリーニング装置は、全自動で車内に安らぎ空間を創造している。

また、世界でもトップクラスの「DCインバータ・スポット溶接機アルザス・プロ」は自動車板金業界に好評の製品。車体軽量化・強化用の超高張力鋼板（超ハイテン）に対応している。そのほか無重力バランスアームの採用で2・3メートルの高所作業も楽に行える。

淀川製作所
板金・金属加工部品で50年

淀川製作所は創業以来、板金・金属加工部品一筋に今年50年を迎える。多様化する社会ニーズに「いかにすれば、お取引先のお役に立つことができるのか」をモットーに、社員全員がプロフェショナル意識を持ち、顧客第一主義を徹底。特に薄板溶接や精密板金、金属機械加工、製缶加工、ロール加工など金属加工のスーパーマーケットを自負している。

また、1社で板金と機械加工の両方ができるところが少ないため、顧客の試作ニーズの多様化に対応し、納期の速さで好評を博している。

最近では同社が中心となり「あっぱれEVプロジェクト」を立ち上げ、3月の完成を目指して3人乗り電気自動車（EV）の開発を進めている。

第一鋼業
機械刃物、熱処理のプロ

第一鋼業は機械刃物製造と金属熱処理加工がメーン。材料調達から機械加工、熱処理、研磨、製品化に至る自社一貫生産が強みだ。鋼（はがね）の熱処理は難しく、長年培った豊富な経験と高度な技術がものをいう。

刃物部門は最長6500ミリメートルの直刃や、1500ミリメートルの丸刃など多種多様に製造。熱処理部門は品質管理・保証の国際規格「ISO9001」を順守した万全な品質保証体制のもと、大型熱処理炉や真空熱処理炉、塩浴炉（ソルトバス）など最新機器を設備。ソルトバスでは試作や小ロット品に特化した受託処理を行い、顧客ニーズに柔軟に対応する。現在、刃物製造と熱処理技術を融合した浸硫窒化やナノレベルの表面改質技術開発に取り組んでいる。

松本現色化学工場
環境型 粉体塗装を推進

松本現色化学工場は1962年の創業。「地球に優しい粉体塗装」を合言葉に全社一丸となって環境保全に努め、社会に貢献する。

同社の静電粉体塗装は優れた塗膜強度、耐食性、耐候性を実現。さらに有機溶剤をまったく使用せず、塗料を回収再利用する。

06年11月に完成した敷地面積8200平方メートルの新工場は、最大長12メートル、最大高3メートル、最大重量1トンの塗装が可能なラインを備えた西日本トップクラスの新鋭工場だ。多色や小ロットなどの顧客ニーズにも柔軟に対応。「景観対応型商品を環境対応型塗装で処理する時代を支えていく工場」（同社）として市場の信頼に応えている。

大阪コートロープ
ステンレス線 一貫体制

大阪コートロープはステンレスワイヤの伸線から、コーティングに至る一貫生産体制を構築している国内でも数少ないメーカー。「大乗利他」の経営理念のもと、長年、研究開発で蓄積したノウハウで、貴金属やレアメタル、超極細特殊コーティングなど、さまざまな加工を可能にしてきた。

最近はシングル伸線で直径9ミリメートルのステンレスワイヤ開発にも成功。その9ミリメートルを49本撚（よ）り合わせた0・08ミリメートルのステンレスロープ製造も実現し、医療機器をはじめとするさまざまな分野での採用が期待されている。

ほかに化学分解し自然に還る植物用結束帯「プロテックエコタイ」など、環境に優しい商品もラインアップする。

スリーエフ技研
研磨ホイール技術に力

スリーエフ技研は研磨ホイールメーカー。1971年の創業以来、独自の研磨理論を製品化することに傾注し、適切なアドバイスと最適な商品を提供している。

超高密度研磨ホイール「GF」タイプ（特許）は、一般のフラップホイールが羽根を叩きつける動きで研磨するのに対し、研磨面を砥粒（とりゅう）がこするように動くため、研削能力が高い。特殊合金など難削材の粗研磨から精密研磨まで幅広く威力を発揮する。そのほか柔らかい研磨布を硬く当て、メッキの下地処理に最適な新発想の「SF」タイプなど豊富に取りそろえている。用途に合わせ一品一様の製品作りにも対応している。

日本プラテック
エンプラ技術で精密部品

日本プラテックは高度なエンジニアリングプラスチック技術で産業用精密部品を供給する。製作品目は弱電部品や理科学・医療用機器部品、食品加工機械部品など幅広く、迅速に対応できる豊富な在庫と品質の高さには定評がある。

また、日本ポリペンコ、三菱樹脂、ユニチカなどの樹脂メーカーや樹脂専門商社とのパイプも太く、少量多品種の注文にも対応するほか、同業他社への材料供給も行っている。

自社開発品の「プラベア」は、ハイテク素材のPVDF樹脂だけで製作したプラスチックベアリング。耐薬品性に優れ、半導体洗浄、製薬ライン、メッキラインなど厳しい条件下で使用できる。

～左ページ下段へ続く～